

安全管理

基本的な考え方

重機や車両による危険な作業を伴う当社事業では「人命尊重」を基本理念として安全衛生管理を実行しています。事故撲滅に向けて、安全作業の徹底と企業風土の醸成に努めています。

安全衛生管理方針

2014年度 安全衛生管理方針

[方針] 人命尊重を基本理念とし、全員参加で労働安全衛生マネジメントシステムを実行し、安全衛生管理水準の向上を目指す。

- 1.安全作業4つの誓い項目を遵守し、労働災害を防止する。
- 2.労働安全衛生法令及び安全衛生管理規程類を遵守する。

[目標] 1.重機・車両災害、墜落・転落災害、土砂崩壊災害、非定常時災害を防止し死亡災害「ゼロ」を達成する。

- 2.災害事故件数10%減。(過去3年間平均×0.9)
- 3.快適な職場環境づくりを推進し、健康の保持増進を図る。

2014年度安全衛生管理方針を全社中央安全衛生委員会の審議を経て、決定致しました。

2013年度の反省 2014年度の安全管理への取り組み

2013年度も「死亡災害ゼロの達成」というトップの強い意志のもと、全社で一丸となり、「安全作業4つの誓い」を確実に実行するとともに、重機・車両と人の分離を第一に実践し、誘導員の配置または監視員による立入禁止措置の監視を確実に行うことで、誤って稼働中の重機や車両に接近しないように指導を強化しました。しかしながら、一次下請け業者の職長の指示による無資格者作業およびクレーン機能付きバックホウの用途外使用により死亡事故を1件発生させてしまいました。

2014年度は、危険作業だから資格が必要であることを理解させ、下請け用作業安全指示書で有資格を確認させることを明確にし、現場で資格者証を確認することで再発防止に努めます。また、①重機・車両と人の分離 ②「安全作業4つの誓い」 ③ドライブレコーダの活用といった防止対策の確実な実施を全社安全重点施策の共通項目として安全管理の向上に努めます。

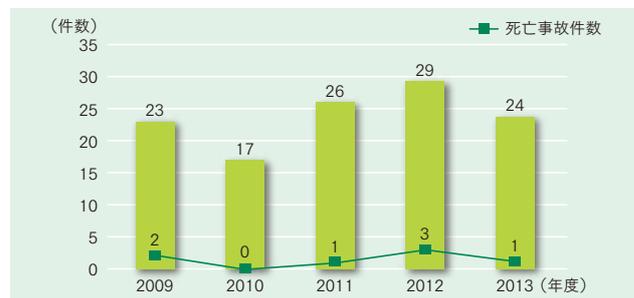
災害発生状況は次の通りです。

▼ 度数率・強度率

		2012年度	2013年度
NIPPO (下請け工事含む)	度数率	0.82	0.58
	強度率	0.60	0.60
建設業	度数率	0.83	1.25
	強度率	0.05	0.23

度数率:100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数で災害の頻度を表す。
強度率:1,000延実労働時間当たりの労働損失日数で災害の重さを表す。

▼ 過去5年の災害件数(休業4日以上、物損50万円以上)



2013年度に発生した24件の災害の内訳は、労働災害が14件、公衆災害6件、交通事故2件、その他2件でした。労働災害は2012年度の22件から14件と3分の2に減少しました。しかし、2010年7月1日からはじめた「安全作業4つの誓い」を守らないで発生している災害がまだにあります。確実な実施には繰り返しの教育・指導が必要であることを実感しました。全社重点施策の共通項目を確実に実施しよう全社一丸となって教育・指導を行い、目標達成に向け活動します。

建設業労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)を2013年3月25日に全社一括認定を取得したことにより、労働災害件数が減少しました。2014年度も、さらなるシステムの維持・改善に努め、安全管理体制の強化を図ります。

NIPPO基本スローガン

『ルールと決めたことをお互いに守り、ゼロ災を達成しよう』

✓ アンケートより

- 安全管理への取り組みは命にかかわることなので確実に実行されるとよいと思う(学生)
- 会社として安全活動の取り組み、啓発活動が評価できる(行政)

私のCSP

成田出張所
黒井 和哉



私たちの事業所は皆家族です。その家族一人ひとりが健康で働きやすい環境をつくること、そして事故に遭わない、遭わせないことを第一に考え「家族の命を守る」をスローガンにお互いが注意し合える風通しの良い職場づくりに努めています。

環境マネジメントシステム

環境方針

環境保全活動の継続的改善に努め、「環境保全と経済活動の両立」する持続可能な社会の実現に貢献する。

1. 環境法令、その他要求事項を遵守して、適正な事業活動を推進する。
2. 環境と資源を大切に、「地球温暖化対策」及び「循環型社会の構築」を基軸とした環境保全活動を推進する。
3. 事業活動を通じて汚染の予防に努めるとともに、環境負荷の低減を推進する。

平成26年6月24日

株式会社 NIPPO
代表取締役社長 岩田裕美

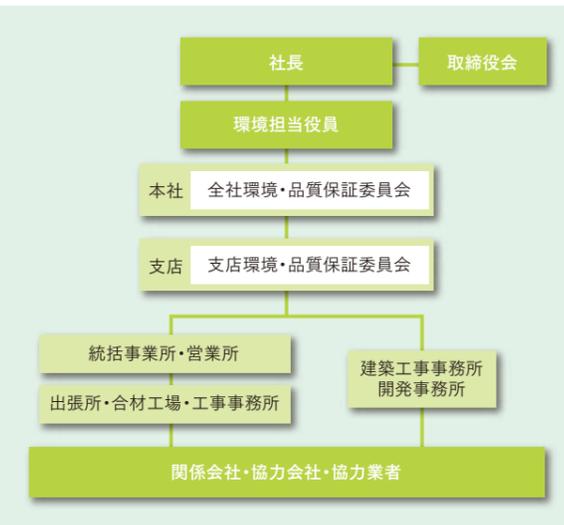
環境マネジメント体制

当社のCSRの中で、環境は最重要課題の一つです。

2014年度の環境方針・環境保全活動目標に基づき、全事業所が年間の環境保全活動計画を策定し、現業事業所は地域の特性に応じた活動を推進しています。

また、全社および支店の環境・品質保証委員会において、関係法令の遵守、公害の未然防止、環境保全の提案、環境活動の状況等を審議しています。

▼環境マネジメント体制図



保全活動の結果と今後の取り組み

全社のCO₂排出量は、売上高原単位においては14.0%削減と計画を達成することができました。

しかし、当社のCO₂排出量の約90%を占める合材部門では、2011年度比0.5%削減の目標(合材製造1t当たり)に対し1.8%増加となりました。CO₂排出量増加の主な要因は、東日本大震災に伴う電力会社のCO₂排出係数のアップによるものでしたが、今後も、CO₂排出量の少ない燃料への変更や省エネ型バーナーの導入など、工場設備の改善を推進してCO₂排出量削減に努めます。

オフィス部門では、電気使用量の削減は2009年度比4.0%削減目標に対し、21.2%削減と目標を達成することができましたが、紙の使用量の削減は2009年度比3.5%削減目標に対し、1.5%削減に留まりました。

産業廃棄物の最終処分率については、2013年度も0.39%と「ゼロエミッション(1.0%以下)」を継続しました。

2014年度から、CO₂排出量削減活動の集計範囲を、工事現場や仮設展示場等を含まない省エネ法の基準に合わせることにしました。主な理由としては、工事の外注化が進み、現場における正確なCO₂排出量の把握が困難となったことが挙げられます。

舗装・土木部門では、新たな目標として「連絡車のエコカー率の向上」を設定し、環境負荷の低減に取り組むこととしました。また、アイドリングストップ等のCO₂削減活動は、今後も継続して推進してまいります。



環境関連勉強会
(大宮・総合技術部)

基本的な考え方

当社は限りある地球資源の有効活用と気候変動への対応について企業としての社会的責務であるという認識の下、事業において排出されるCO₂や産業廃棄物に関しては毎年計測を行い、年間の環境保全活動方針に沿って全社をあげて削減・リサイクルに向けた取り組みを行っています。

▼2013年度の目標と実績および2014年度の目標

◎ 100%達成 ○ 80%以上達成 △ 60%以上達成 × 達成率60%未満

区分	目的	対象範囲(組織)	2013年度の目標	2013年度の実績	評価	2014年度の目標
地球温暖化防止対策	CO ₂ 排出量の削減	全社(全部門)	—	総排出量 36.1万t-CO ₂ /年	—	—
			2009年度比 4%削減 (売上高原単位での削減)	14%削減 (115.1t-CO ₂ /億円)	◎	2009年度比 5%削減*1 (114.7t-CO ₂ /億円)
		合材部門	2011年度比 0.5%削減 (合材製造1t当たりでの削減)	1.8%増加 (34.0kg-CO ₂ /t)	×	2011年度比 1.0%削減 (合材製造1t当たりでの削減)
		舗装・土木部門	2011年度比 1%削減 (売上高原単位での削減)	8.8%増加 (19.7t-CO ₂ /億円)	×	2014年度から、CO ₂ 排出量削減活動の対象範囲を省エネ法の基準*1に合わせるため、各部門の目標設定を廃止し、「全てのオフィス」の目標に変更する。
		建築部門	21.0t-CO ₂ /億円 以下 (売上高原単位での削減)	13.5t-CO ₂ /億円	◎	
循環型社会の構築	産業廃棄物の削減	全社(全部門)	最終処分率 0.9%以下 (ゼロエミッションの継続)	0.39%*2 (ゼロエミッションの達成)	◎	最終処分率 0.85%以下 (ゼロエミッションの継続)
		舗装・土木部門	最終処分率 0.5%以下	0.33%	◎	最終処分率 0.5%以下
		合材部門	最終処分率 2.8%以下	0.92%	◎	最終処分率 2.8%以下
		建築部門 (解体工事を除く)	11kg/m ² 以下 (建築面積当たりの最終処分率)	7.4kg/m ²	◎	10.5kg/m ² 以下 (建築面積当たりの最終処分率)
環境負荷の低減	環境技術開発の促進	全社	1工法以上	1工法	◎	1工法以上
	環境配慮型工法*3の 技術営業推進		100億円	125.4億円	◎	100億円
	環境教育の推進		環境教育の実施 1回以上/事業所	実施率 97.7%*4	○	環境教育の実施 1回以上/事業所
	環境コミュニケーションの推進		CSRレポートの発行(9月)	CSRレポートの発行(9月)	◎	CSRレポートの発行(9月)
	連絡車のエコカー率の向上*5	舗装・土木部門	—	50.5%	—	2013年度比 1%向上 (51.5%)
	電気使用量の削減	全てのオフィス	2009年度比 4.0%削減 (11,434MWh)*6	21.2%削減 (9,390MWh)	◎	2009年度比 5.0%削減
紙使用量の削減	2009年度比 3.5%削減 (181.3t)		1.5%削減 (185.0t)	×	2009年度比 4.0%削減	

- *1 省エネ法の基準では、「継続的に事業活動を行う工場等」に該当しない工事現場や仮設展示場等は、CO₂排出量削減活動の対象外となります。
- *2 2012年度の建設副産物実態調査結果(国土交通省)での最終処分率は4.0%(発生量7,269万トン)(最終処分率=最終処分量/総排出量...全て重量換算)
- *3 環境配慮型工法とは、「CO₂排出抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクル、土壌浄化に資する工法」とし、具体的には「土壌浄化」および「遮熱性」「保水性」「エコ商品」「エコファイン」「表面処理」「クレイ系」「木質系」「天然芝」「FRB工法」「スタビ工法」の10工法を対象としています。なお、「FRB工法」「スタビ工法」は2013年度から追加した工法です。
- *4 実施率=1回以上実施事業所/対象事業所
- *5 舗装・土木部門では、「連絡車のエコカー率の向上」により、環境負荷の低減(間接的にCO₂排出量の削減)を図ることとしました。
- *6 1MWh=1,000kWh

✓アンケートより

- 環境に対して実行していることが数値化されていてわかり易く、環境を意識しているのが分かるようになっていたのが良かった(学生)
- 環境の具体的な目標を立てるのは、とても難しいと思います。数値だけでは難しいです。評価の考え方を教えてもらいたいです(自社で目標を立てるための)参考にしたいです(取引先)
- 環境マネジメントの表が見にくい。数値にこだわりすぎている。もう少し見やすく簡素でも良いのでは(従業員)



当支店では、地球温暖化対策として、CO₂の排出量を削減するために、業務用自動車を順次エコカーに替えています。また、環境負荷を低減するために、工事現場・合材工場から排出される産業廃棄物の再資源化に努め、最終処分率を0.4%以下とすることを目標にしています。



事業所・家庭ともに自治体のルールに従い、資源とゴミを分別し、ゴミの削減に努めています。また、毎月の安全朝礼の後には、みんなで近隣の道路や公園の清掃を行い、街の美化に貢献しています。環境は、一人ひとりの小さな心掛けにより維持され、向上していくと思います。

舗装事業における環境保全活動

環境型リサイクルへの取り組み

アスファルト合材工場では、資源の有効利用を図るため、建設副産物や他産業副産物のリサイクルに取り組んでいます。

建設副産物のリサイクル

当社は1950年代前半から、当時としては珍しかった「アスファルト舗装リサイクル技術」の研究に取り組み、現在の技術やシステムをほぼ確立して全国に展開しました。現在、全国に157カ所のアスファルト合材工場を保有していますが、このうち150工場でアスファルトやコンクリートのがれき類(建設副産物)を受け入れし、157工場で積極的に骨材として再利用し、再生合材、再生路盤材として製造・販売しています。

再生合材の製造比率は、2005年以降70%を超えており、再生資源の有効利用を推進しています。

建設副産物受入量の推移



他産業副産物のリサイクル

1981年からは、家庭から出る一般廃棄物の焼却灰を処理して発生するゴミ溶融スラグをアスファルト舗装材料の一部として有効利用する研究を開始し、その技術を確立しました。

現在では、こうした取り組みを核に、全国の工場で、アスファルト舗装をその品質を低下させることなく、他産業から出る副産物を適正に処理して舗装材の一部に有効利用するなどの積極的な活動を行っています。

アスファルト合材工場での環境配慮

アスファルト合材工場では、化石燃料や電力などを使用してアスファルト合材等を製造していますが、周囲の環境に悪影響をおよぼさないよう、細心の注意を払い、対策を行っています。

二酸化炭素排出量の削減

アスファルト合材の製造に伴って生じる二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減するため燃料を重油類から、都市ガスや灯油等へ徐々に切り替えを進め、省エネルギー型の設備や機器類も積極的に配備しています。2013年度末現在、都市ガス化した合材工場が14カ所、省エネ型の高効率バーナ(ハイブリットバーナ:空気比が低く、広範囲の燃焼制御が可能)を導入した合材工場が70カ所となっています。



環境対策としてハイブリットバーナおよび脱臭炉を導入した例(岡崎合材工場)

合材工場CO₂排出量の推移



燃料使用によるCO₂排出量の推移(全社)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
CO ₂ (トン/年)	245,271	226,955	224,043	236,551	232,915
原単位(kg/合材トン)	23.9	24.4	24.9	24.9	24.7
工場数	157	157	158	157	157

大気汚染対策

工場周辺の空気を汚さないよう、定期的に窒素酸化物や硫黄酸化物、ばいじん等の排出量を測定・管理しています。また、法令規準より高い性能の集じん機を整備し、製造工程の

基本的な考え方

舗装工事やアスファルト合材の製造事業では、様々な工程で排出物や廃棄物が生成されます。当社は製造工程や流通などにおける環境負荷低減や資材リサイクルを促進することが、当社の社会的責任を果たすことだと考えています。

▼アスファルト合材工場からの大気汚染物質排出量 (単位:トン/年)

種類	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
窒素酸化物(NO _x)	103.8	96.8	114.0	112.2	104.5
硫黄酸化物(SO _x)	129.3	125.1	91.7	103.9	136.9
ばいじん	64.6	57.0	50.5	46.1	65.4

上位50工場のサンプリングからの推計でサンプル率は、約60%です。

様々な箇所に、粉じんを飛散させないような設備等を設けるなどの対策を行っています。

その他の環境対策

住宅地に隣接する合材工場において、騒音や粉塵の発生に対して苦情のでるケースがいくつかありますが、環境整備につとめることで、大幅な改善を進めています。また最近では、アスファルトを加熱した際の悪臭に関する苦情に対処するため、都市部にある主要16工場には、脱臭炉を整備しています。

まだまだ、問題の全てが解決出来ていませんが、プラントの更新時期に合わせ、環境対策型設備の導入を図るなど、環境整備・環境投資を続けています。



プラントを全閉型のシェルタータイプとし、都市ガスを燃料とし且つ脱臭炉を導入するなど2013年度に環境整備を図った例(岡崎合材工場)

舗装現場での環境配慮

舗装工事の際の主な環境負荷には、施工機械等による騒音、排ガスによる大気汚染、CO₂、産業廃棄物の排出などがあります。

施工機械の騒音・排出ガス対策

舗装工事に使用する施工機械を順次、環境負荷の少ない排ガス対策型・低騒音型に切り替えています。2013年度までに、保有機械の90%を排出ガス対策型に、91%を低騒音型に切り替えました。

対策済みの施工機械は、主に規制対象地域で使用していますが、対象地域以外でも積極的な使用を推進しています。

▼施工機械の環境対策整備状況 (台)

	2011年度			2012年度			2013年度		
	保有	対策	率	保有	対策	率	保有	対策	率
排出ガス対策型	113	100	88%	95	84	88%	101	91	90%
低騒音型	224	194	87%	205	182	89%	206	188	91%

二酸化炭素排出量の削減

施工機械や資材を運搬するダンプトラック等のアイドリングストップを推進しています。また、施工機械は更新時に、低燃費型に切り替えています。

産業廃棄物の排出管理

全ての部署、事業所で発生する産業廃棄物の分別を徹底するとともに、部署毎に排出量を種類別に管理し、再資源化・省資源化計画を立てて実行しています。産業廃棄物量に占める最終処分量の割合は、2009年度が0.94%、2010年度が0.72%、2011年度が0.90%、2012年度が0.46%、2013年度が0.39%と確実に低減しています。

輸送行程での環境配慮

輸送行程での主な環境負荷は、ダンプトラック等の燃料消費に伴うCO₂の排出と騒音です。

アスファルト合材の材料となる骨材の運搬は、自動車輸送から海上輸送への切り替えを進めており、全骨材使用量の約5%を海上輸送にて行っています。2009年度25万トン、2010年度28万トン、2011年度26万トン、2012年度28万トン、2013年度20万トンの骨材を海上輸送により受け入れています。

また、ダンプトラック使用時には、アイドリングストップやエコドライブに努めるように、運送会社を指導しています。

✓ アンケートより

- 舗装事業における環境保全活動は御社のメイン事業ですので内容をもっと詳しく充実されるとよいと思います(取引先)
- 産業廃棄物の現状等リサイクルの流れを詳しく掲載して欲しい(従業員)



私のCSP
中日本管理支社 岩崎 勉

オフィス内における環境管理としては、室温28℃設定による空調管理やLED照明の利用、休憩時の不要な照明やPCモニタの電源OFFによる消費電力の節電を行い、環境に配慮した事務用品の使用、ミスコピーの裏面利用、ペットボトルの分別による廃棄物の削減など成果として目を見張るような活動ではありませんが、地球温暖化の原因となるCO₂排出量の削減に支店全体として取り組んでいます。



私のCSP
北海道支店 山崎 健作

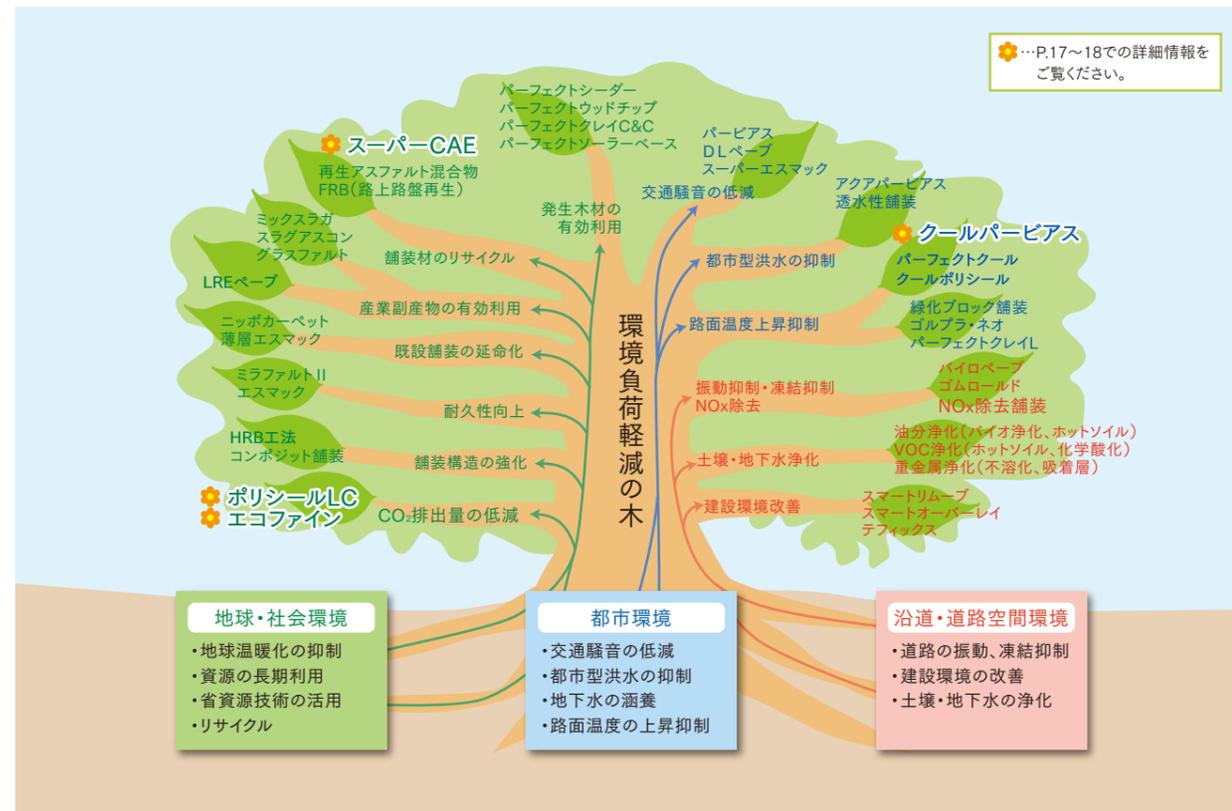
私は技術グループで勤務しています。お客様や、現場の担当者から、「品質・技術」における問い合わせが多い部署です。問い合わせに的確に応え、常に良い技術と良い製品を提供するには、自分の知識や経験が必要です。また、新しい技術にも対応できるように、日々「技」を磨いている最中です。

舗装事業での環境技術

基本的な考え方

舗装事業では、事業活動の中での環境負荷低減だけでなく、材料・製品・舗装工法を通じた環境負荷低減にも力を入れるため、新しい環境技術の開発に努めています。当社は長年の取り組みで培われた独自の技術力を活かし、人・都市・地球環境に配慮した技術開発を進めています。

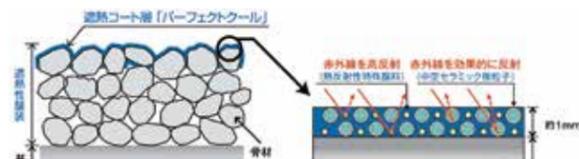
▼環境舗装・資材のラインナップ



遮熱排水性舗装 クールパービース

「クールパービース」は「パーフェクトクール」を排水性舗装に適用し、排水性舗装が有する機能を活かしながら路面温度上昇抑制機能を付加した多機能型排水性舗装です。

2014年4月に本技術が有する環境負荷低減が認められ、



NETISの有用な新技術として「平成26年度活用促進技術」に指定されました(登録番号:TH-020057-V)。

なお、本技術は世界の2つの大きな道路関係機関である世界道路協会(PIARC)と国際道路連盟(IRF)で、それぞれ2011年9月に「最優秀賞(ベストイノベーション賞)」、2008年に「世界道路功績賞」を受賞しています。



皇居外苑桜田門前

低炭素アスファルト舗装(中温化技術) 「エコファイン」

道路舗装分野からの地球温暖化抑制対策の一つとして、当社は1996年に国内他社に先駆けて低炭素アスファルト舗装「エコファイン」の技術を確立しました。これは、加熱アスファルト混合物製造時に特殊添加剤を加えることで、アスファルト



環境ラベル

内に微細な泡を発生・分散させ混合性を改善し、製造温度を通常よりも約30℃低減させることができる技術(中温化技術)です。これによって、燃料消費量を低減し、CO₂排出量を約

15%削減することができます。

国内の加熱アスファルト混合物は舗装材料として年間約5,000万トン(2013年度)使用されていますが、この全てに中温化技術を適用すれば、CO₂排出量は約14万t/年削減することができます。なお、「エコファイン」は、環境省グリーン調達特定品目(資材)の「中温化アスファルト混合物」に該当します。また、本技術は同省の「環境ラベル等データベース」にも登録しています。

中央混合方式の再生セメント・アスファルト乳剤安定処理路盤材「スーパーCAE」

コンクリート舗装版の取壊しやビルの解体現場などから発生するコンクリート発生材とアスファルト舗装版撤去などから発生するアスファルト再生骨材を再生資源として、リサイクル利用する常温型再生路盤材です。これらの現地発生材とセメント、アスファルト乳剤、水をプラントで混合し、路盤材として有効利用するもので、強固な路盤が構築でき耐久性に優れています。また、常温型なのでCO₂排出量が少ないなど環境面でも優れた材料です。



使用材料

舗設状況

✓ アンケートより

- 新しい環境技術に興味を持って拝見させていただきました(取引先)
- 「舗装事業での環境技術」ページで学びや新しい発見がありました(従業員)

私のCSR

東日本管理支社
川田 英



当社の企業理念には、「確かなものづくり」という言葉が謳われています。当社が行う工事・製造する製品の品質はもちろん、仕事への姿勢にも『確かなものづくり』が求められると理解しています。私は現在、内勤業務に従事しているため品質上の『確かなものづくり』を直接感じる機会は少ないのですが、日常の業務を丁寧に行うことで私自身が『確かなものづくり』を日々心掛けています。

私のCSR

北海道支店
原 由美子



会社の災害速報を見ると、事故の原因で最も多いのは、ルール違反だと思えます。ルールは知っているが守らなくても問題ないという思い込みから確認不足や操作ミスが発生し、これが事故につながっています。現場や工場では勿論、私の働く支店でも、一人ひとりがルールを守ることを心に誓い、絶対に事故を起こさないように、と願っています。

戦略事業における環境・安全配慮

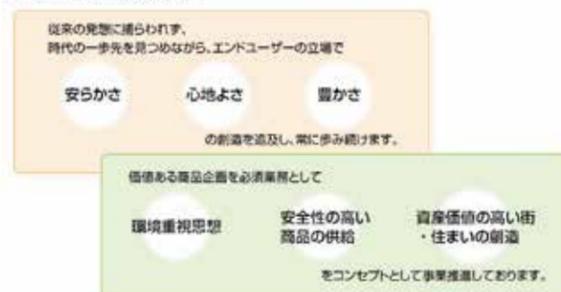
基本的な考え方

当社は戦略事業として「不動産開発事業」「建築事業」「土壌浄化事業」を展開しています。いずれの戦略事業でもNIPPOらしい独自の環境・安全面の対応を行うために、様々な技術開発や取り組みを行っています。

不動産開発事業における環境・安全配慮

不動産開発部門では、環境と安全に配慮し、永く安心していただける住環境の提供を柱とした不動産事業を全国で展開しています。

不動産事業推進、展開ポリシー



開発展開ポリシー

マンション分譲事業

マンション事業は、5つの価値を重視し、「ル・サンク(Le Cinq)シリーズ」として展開しています。



地域特性を把握し、未来を見据え、敷地分

析、建物計画、吟味した設備仕様を整えた「資産価値の高い」マンションの開発供給に取り組んでいます。

【周辺の環境に配慮した、マンションへの取り組み】



ル・サンク中島公園



ル・サンク上郷町

再開発事業

魅力ある街づくりを推進しています。

「安全で安心な街づくり」「地域の歴史・文化を活かした美しい街づくり」「活力とゆとりのある暮らしを実現する街づくり」を目指しています。



ル・サンク大崎ウズタワ



大崎駅西口再開発状況

不動産賃貸事業

働くための、住むための、生活するための、空間を創造します。商業施設、オフィスビル、賃貸マンション、オフィスビルや賃貸マンションとの複合施設、複合駐車場等、多種多様な賃貸事業に取り組んでいます。

【太陽光発電搭載の賃貸施設】



アーバス筑後町



アーバス東千田

中間・竣工検査の確実な実施

「確かなものづくり」を目指し、事業主として中間検査・竣工検査を確実に実施しています。

✓ アンケートより

- 地味な職種だと思っていたが、様々な事業・取り組みがあり、イメージが明るくなった(株主・投資家)
- 浄化工事の具体施工例をもっと掲載してほしいと思う(取引先)

建築事業における環境・安全配慮

建築事業では建物の計画・設計段階から環境負荷低減の取り組み、施工段階では産業廃棄物・CO₂排出量の削減、省力化工法採用の推進等、具体的な数値目標を設定し環境保全活動の強化を図っています。

設計段階での取り組み事例

計画・設計段階ではCASBEE利用による環境配慮設計として太陽光発電、壁面・屋上緑化、高断熱化、LED照明採用およびLCCO₂の排出削減等を推進しています。また、ゼネコン数社と省力化工法の共同開発に取り組みプレキャストコンクリート躯体の構築に関する特許を取得しました。



高出力型LED照明採用事例



太陽光発電+屋上緑化施工事例



グリーンウォール施工事例

施工段階での取り組み事例(省力化工法)

建築現場での取り組みとして、プレキャスト工法、ユニット工法等の省力化工法の採用を推進しています。採用することにより、産業廃棄物削減、CO₂削減、品質向上、安全確保を図るとともに、技能工不足への対応にも繋がっています。



鉄筋ジャバラユニット工法事例



土壌浄化事業における環境・安全配慮

環境事業部では『より確実に、より安く、より早くお客様の立場でサービスをご提供します』を念頭に、土壌環境に関する課題をお持ちのお客様からご相談を受けた場合、トータルエンジニアリングとして、その調査、分析、汚染の評価、対策計画、工事および監視に至る一貫したシステムサービスお客様の立場に立って取り組んでいます。

対策工事では数ある工法の中から、敷地面積、工事期間、周辺環境等様々な要素を考慮し、3,400件を超える実績(2014年3月末現在、土壌対策工事実績1,049件、土壌調査実績2,353件)から環境・安全に配慮した設計および施工を行っています。

浄化工事における環境・安全配慮

土壌汚染対策法の施行から約10年が経過し、土壌浄化市場はもはや成熟期に入りました。

当社では「確かなものづくり」を企業理念とし、当分野においても1,000件を超える工事実績によりお客様から信頼を得てきましたが、これを維持・発展させるにはさらなる差別化が求められています。

昨今の土壌浄化への世間の関心が高まるなか、周辺住民への気配りを意識しない施工は到底受け入れられず、注意すべきポイントで、施工条件に応じた環境・安全への細やかな配慮を怠らず、周辺住民やお客様に安心をご提供します。



臭気対策(スーパーミスト)



転落防止対策(ネット被覆)

私のCSR

総合技術部
中村 剛



私は特許・契約の管理業務を担当しています。特許については、他社の特許を侵害すると特許法違反となりますので、そのようなことがないように、同業他社の特許が登録される都度、定期的に特許公報を収集し、当社業務と抵触していないかどうかを確認しています。契約については、当社がユーザーの立場で締結するものが多いので、優越的地位の乱用とならないように、締結時に契約内容の事前確認を行っています。

私のCSR

北海道支店
田端 紀夫



私は支店の総務グループで勤務しています。法令だけでなく、社内のルールに基づいた業務遂行を心掛けています。社内のルールも、法令の要請や自社の失敗事例を基に、会社の実情に合わせて、運用しやすいよう、間違いが起こらないよう定められたものだからです。